

バス路線廃止に伴う取組みについて

地域旅客運送サービス継続事業を活用した
「東部丘陵線コミュニティバス」の運行

2023年2月15日 地域公共交通シンポジウム in 北海道

岩見沢市企画財政部企画室

企画調整担当主幹 北 辻 寛



- 1** 岩見沢市について
- 2** 事業の背景
- 3** バス路線の廃止と運行開始に向けた取組み
- 4** 東部丘陵線コミュニティバスの概要

1

岩見沢市について

岩見沢市の概要や行政の取組み、観光名所、グルメなど、岩見沢市の魅力を少しだけ紹介します





岩見沢市は、北海道のほぼ中央に位置し、札幌や新千歳空港からも近く、都市機能と豊かな自然環境を併せ持った空知地方の中心のまちです。

石炭産業の全盛時は、鉄道輸送の拠点として賑わい、炭鉱閉山後も、もう一つの産業の柱だった農業を中心に、道内の交通の要衝としても発展してきました。



COO Hokkaido

- ・面積 481.02㎡
- ・人口 77,303人
- ・高齢化率 37.2%
- ・基幹産業 農業
- ・学校数 小学校14校
中学校9校
高校4校
大学1校



Map data ©2022



子育てしやすいまち
「健康経営都市」



産学官連携による
デジタル化推進



北海道の米どころ、小麦どころ



旅行雑誌でも評価の高い
温泉施設



豪雪に負けない迅速な
除雪体制



地元民に愛される
豊富なグルメ

2

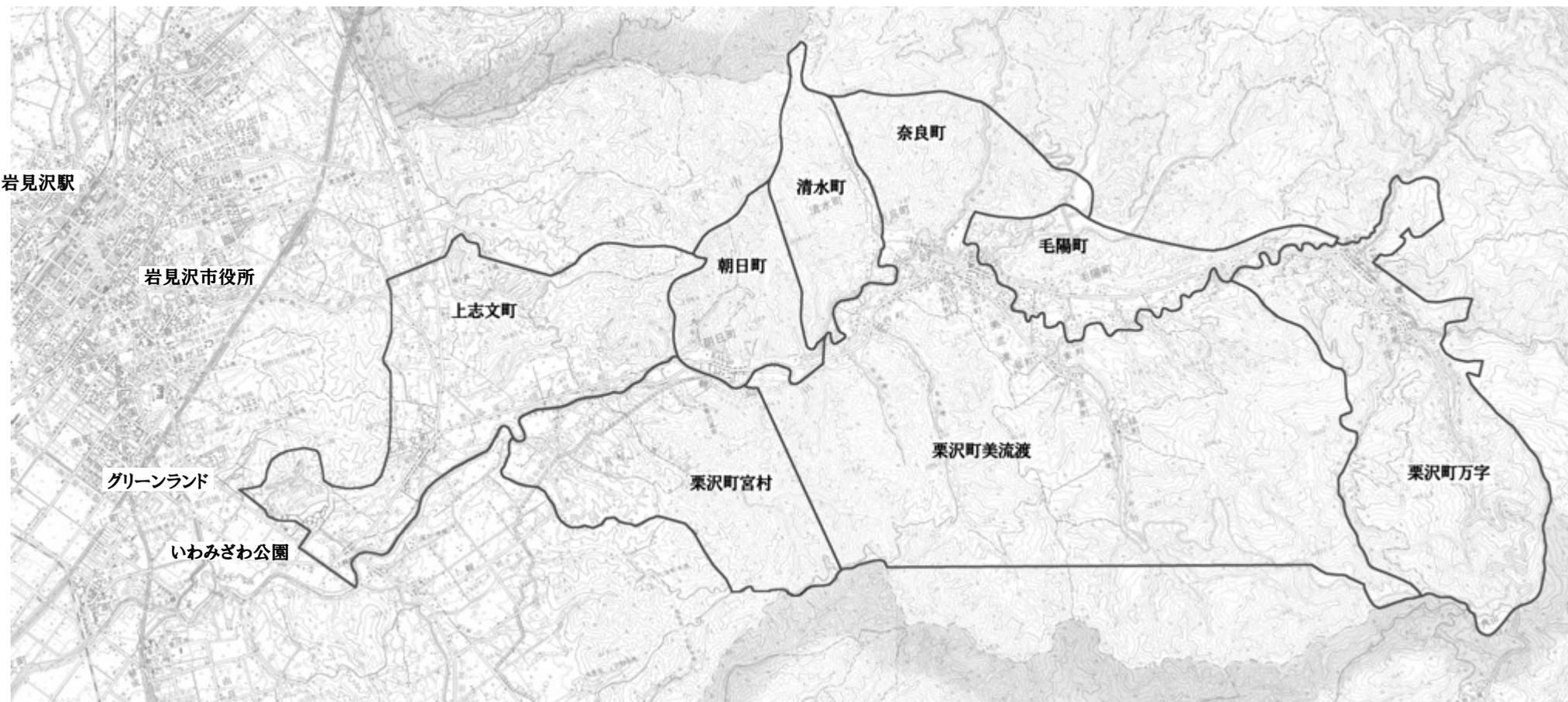
事業の背景

炭鉱時代の繁栄と国鉄万字線の開業
エネルギー革命による炭鉱の閉山
地域の衰退と万字線の廃止





岩見沢市内における東部丘陵地域の位置関係

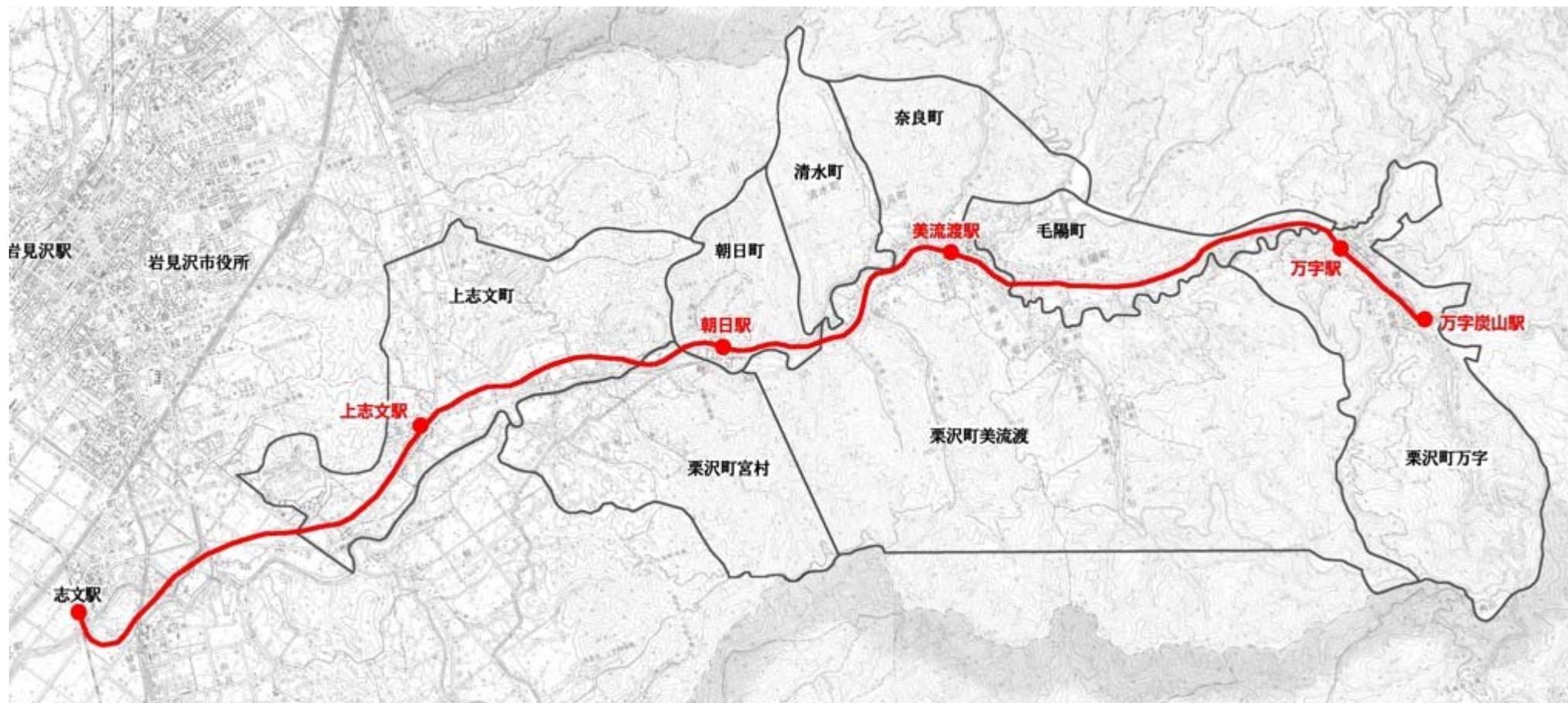


東部丘陵地域は、岩見沢市内の中でも東側に位置する山間地域です。栗沢町万字の東側は夕張市と隣接しており、農業、特に果樹の生産が盛んな地域です。

石炭産業の全盛時は、朝日町、美流渡、万字の3か所に炭鉱があり、炭鉱によって栄えた地域になります。（朝日町から東側の6地区の人口、昭和40年で約15,000人）



国鉄万字線の開業と廃線：大正3年～昭和60年



国鉄万字線は、線名の由来である万字炭鉱から算出される石炭の積み出しのため、万字計便線として大正3年に開業。万字線の開通は沿線の開発を促進し、美流渡炭鉱や朝日炭鉱など多くの炭鉱が生まれ、石炭輸送で大いに活況と呈することとなりました。

しかし、第二次世界大戦以降のエネルギー革命の中、炭鉱の相次ぐ閉山により、次第に寂れ、昭和53年には貨物営業を廃止し、昭和60年に廃線となりました。



炭鉱時代の繁栄





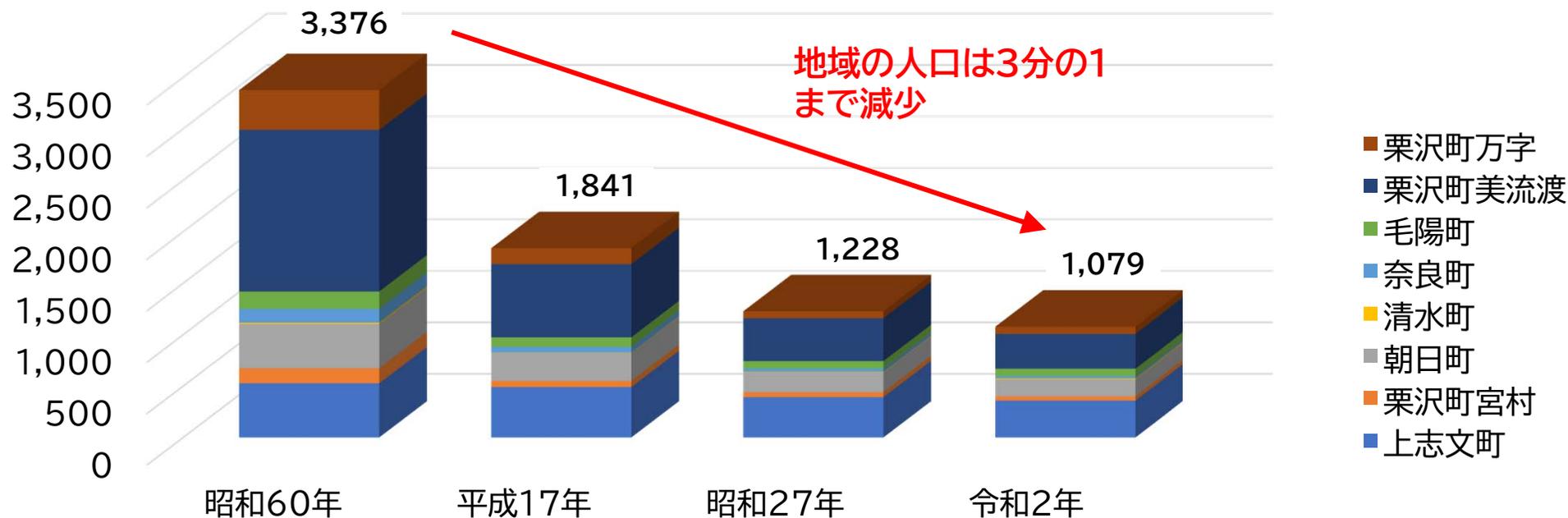
エネルギー革命による炭鉱の閉山・万字線廃止・地域の衰退



第二次世界大戦以降のエネルギー革命により、石炭需要は減少し、炭鉱は相次いで閉山してきました。

- 美流渡炭鉱…昭和41年閉山
- 朝日炭鉱 …昭和49年閉山
- 万字炭鉱 …昭和51年閉山

炭鉱の相次ぐ閉山による地域の衰退とともに、万字線の利用は次第に寂れ、昭和53年には貨物営業を廃止し、昭和60年に廃線となりました。

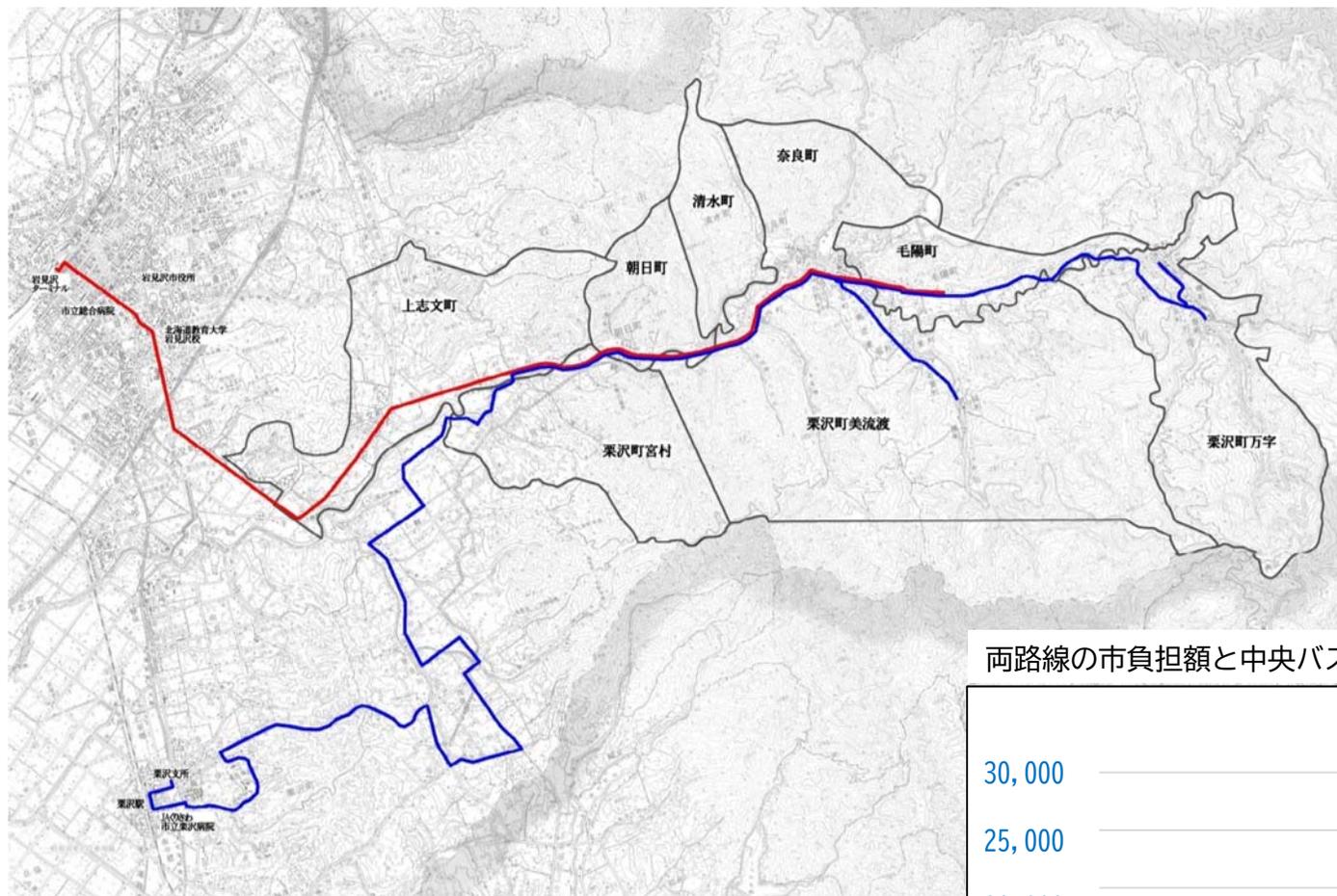


3

バス路線の廃止と 運行開始に向けた 取組み



国鉄万字線廃止後の交通（※令和2年度時点）



中央バス万字線

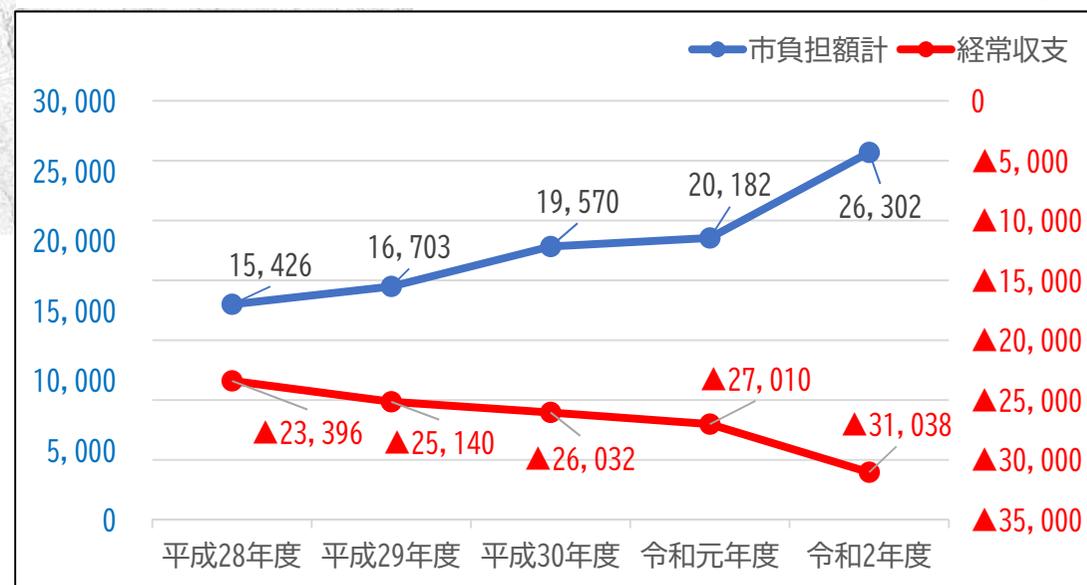
便数：毛陽行 7便、ターミナル行 8便
 運賃：片道最大 740円
 路線長：片道 19.7km
 利用人数：1日あたり平均(平日) 20人前後

市営バス万字線(※)

便数：万字～毛陽 毛陽行1便、万字行1便
 (平日) 万字～栗沢 栗沢行2便、万字行2便
 運賃：無料
 路線長：片道45.3km
 利用人数：1日あたり平均10人弱

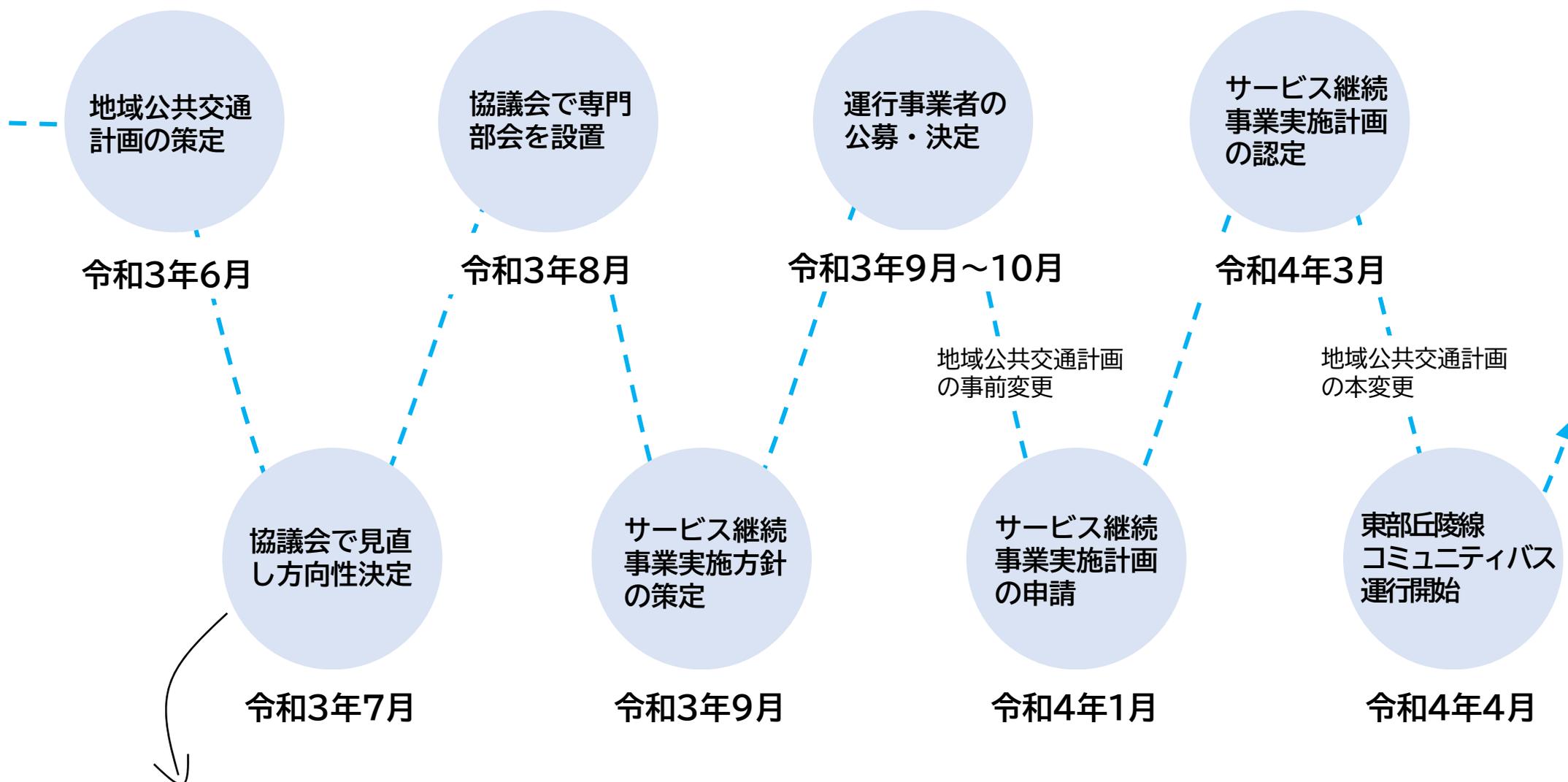
(※:合併前の旧栗沢町時代から運行)

両路線の市負担額と中央バス万字線の経常収支 (千円)



- 旧国鉄万字線の経路に沿って2路線のバスが運行
- 国鉄万字線廃止時と比較して人口は約3分の1に
- 著しい人口減少の中、長大路線の運行効率は悪化
- 令和3年2月には中央バスから協議開始の要請

運行開始に向けた取組み



地域旅客運送サービス継続事業の活用を決定

- 代替交通の確保を前提に、中央バス万字線と市営バス万字線を廃止
- 経路の効率化や車両のダウンサイジングによる持続性の確保

何より大切にしたこと

地域の町会長たちとの対話

沿線6つの町会長との対話の回数

延べ60回以上

(スケジュールで把握できるものだけで)

- コロナ禍でたくさんの人を集めて話を聞いたり、説明会を開いたりというのは難しい状況。
- 地域のことを一番知っているのは、地域の人たちであり、その中心を担っている町会長の皆さん。
- 町会長の皆さんと「対話」と「コミュニケーション」により、自分たちと協働で取り組んでくれた。
- 町会長の皆さんがそれぞれの地域で話し合い、そこで出た意見や要望などをもとに、新しい路線の構築へ。



(沿線の町会長、交通事業者が集まった意見交換会)

4

東部丘陵線 コミュニティバスの 概要



東部丘陵線コミュニティバスの概要

令和4年4月1日運行開始時の路線の概要





利用促進の取組み①（美流渡地区在住の画家「MAYAMAXX」による車両のペイント）



MAYA MAXX 氏のプロフィール

MAYA MAXX (マヤマックス)
1961年生(60歳)

日本の画家、イラストレーター、絵本作家。
愛媛県今治市出身。愛媛県立今治西高等学校を経て、早稲田大学教育学部卒業。
毎年開催している個展をはじめ、よしもとばなな、山田詠美など小説の装丁画や絵本創作、CDジャケットデザイン等を手がけ、若い世代からの支持も高い。フジテレビ「ポンキッキーズ」などテレビ番組にも出演、映画「ハチミツとクローバー」絵画指導など多方面で活動。
2020年から岩見沢市の美流渡地区に移住。旧美流渡中学校を活用した展示企画や市立図書館でのイベントのほか、地元小学校でのワークショップなど、自身の活動とともに地域の活性化にも取り組んでいる。



利用促進の取組み②（バスロケーションシステムの導入） ※市内路線では唯一



スマートフォンなどで地図アプリ「知らせてビューア」を利用することで、車両の現在位置や運行状態が可能になるほか、通知アラームの受信も可能。



待ち時間の解消（特に冬期間）などの利便性向上へ

豪雪地帯の岩見沢市においては、冬期間の運行状況を知ることは利用者のニーズとしてとても高い



閲覧用無料アプリ「知らせてビューア」

※対応OSバージョン：Android OS（2.2以降）、iOS（5.0以降）

位置情報を見るための地図アプリ

知らせてビューア
Android版



位置情報を見るための地図アプリ

知らせてビューア
iPhone/iPad版



東部丘陵線コミュニティバスの概要

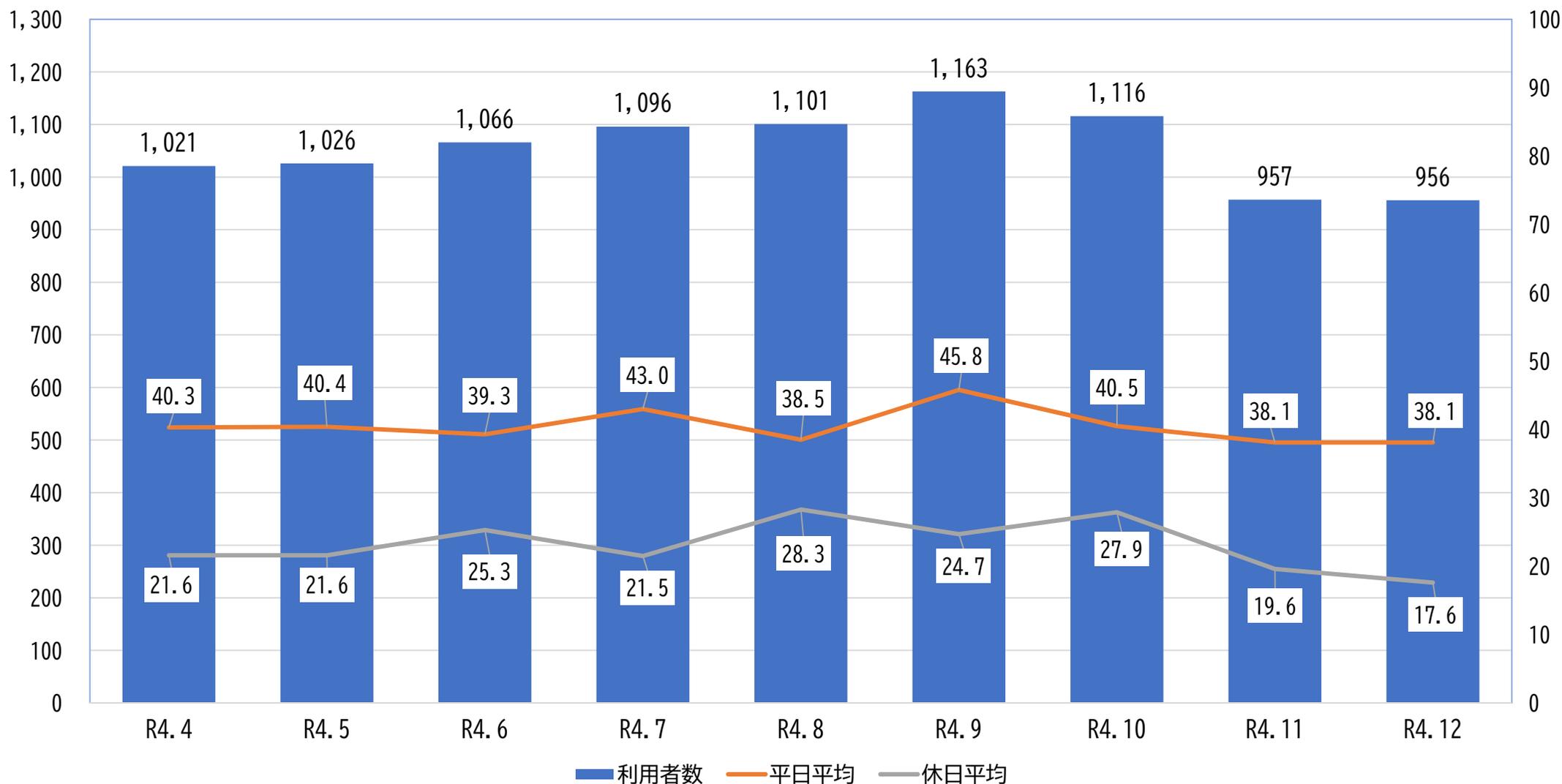
4月1日出発式～利用の様子



東部丘陵線コミュニティバスの概要



令和4年度 利用者数の推移 (4月~12月)



路線廃止前の中央バスの一日当りの利用人数

平日 20人前後 休日 10人前後



平日・休日ともに
利用者は倍近くに

利用者合計 (4月~12月)	9,502人
平日平均	40.4人
土日祝平均	23.1人

東部丘陵線コミュニティバスの概要

地域住民の感想（利用者数が伸びている要因）

地域住民からは

「今までよりも安く利用できてとても助かっている」

「岩見沢市街地へスムーズに行くことができて便利」

「（見直しを）やってよかった」

などといった声が多く寄せられており、新たな地域の生活の足として、好意的に受け入れられている。

利用者数が伸びている要因としては…

●運賃の低廉化（最大740円 → 最大500円）

●住民ニーズを踏まえた路線や時間帯の設定

●地域住民の自分事化（乗らないと無くなる → 新たな利用者層）

➡モビリティマネジメントの醸成(?)

東部丘陵線コミュニティバスの今後

運行開始後も地域の状況や意見を聴きながら、12月には時刻表の変更や停留所の追加などの見直しを行っています。
沿線地域の人口は、今後も減少していくことが見込まれていますが、様々な取り組みも視野に入れながら、今度も地域の皆さんと作り上げる「暮らしの足」として、持続性可能な路線の維持に取り組んでいきます。



ご清聴ありがとうございました

ぜひ一度「岩見沢市」へお越しくください

